

●ガバナー 築館 智大 ●会長 大橋 央雅 ●幹事 伊藤 斉 ●コミュニケーション委員長 米内 安芸

ホームページ：http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/ Email：hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

Facebook ページ：https://www.facebook.com/hachinohehinamirc/

Facebook ページに「いいね！👍」をお願いします。

RI 第 2830 地区ホームページ：http://www.rotary-aomori.org/2020/

第2274回例会記録

《ポールハリス追悼例会》

2024年1月25日(木)

点鐘 12：30

レポート No. 1706

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか



《ビジター》

佐々木 貴之様 (八戸東 RC)

《会長要件》大橋会長



今週は非常に風が強く、昨日も今日も、明日も明後日も最大瞬間風速 10 メートル以上の予報が出ていますので十分に注意してください、先程伊藤幹事とも話していましたが、車を駐車場に止めた時に風が吹いてあおられたりして、隣の車にぶつかってしまったら大変な事に成ってしまいますのでお気を付けください。

名神高速道路で立ち往生が発生したようですが、日本で電気自動車あまり普及していませんので良かったなと思いました。ガソリン車でしたらガソリンを入れるだけで済みますけれども、電気自動車は充電スタンドまで行かないと駄目ですから、次に車を買換えるとしてもハイブリッド車かプラグインハイブリッド車が最適解かなと思う事故でした。個人的にはガソリン臭くてボンボンと音のなる車が好きです。

今日はポールハリスさんの追悼例会です。この例会も世界的に見ても実施しているクラブは少なくなっていると聞くことはございますけれども、歴史という物は過去の積み重ねによって今がありますので、その始まりというものを知るとい事は非常に大切な事だと思いますし意味のある行為だと思っています。ロータリーボイスというホームページがあり、この頃ちょっと見ているのですが、ご存知の方もおられるかと思いますがロータリー活動に参加したロータリアンとか、奉仕活動にボランティアで参加した人たちが投稿した記事を見ることが出来るサイトでございます。その中に「多様性の時代のロータリー、19歳で入会した私が思うロータリーの可能性」という記事を読んだ感想ですが、かつてポールハリスさんがおっしゃった「ロータリーの物語は何度も何度も書きかえなければならない」という事が



《出席報告》西尾委員長

正会員数 28 名。本日の出席は免除会員 5 名を含む 15 名。出席率は 57.7%です。

載っていたと思いますが、そういうことを何となく想起させるようなブログの記事でございました。皆さんもロータリーボイスと言うのをグーグル検索してみてください。この記事は 10 日ほど前の記事だと思いますが新しい記事ですのですぐに見つかると思いますので読んでみてはいかがでしょうか、今日は長嶺会員の卓話期待しています、よろしく願いいたします。

米山功労クラブという事で八戸南ロータリークラブへの感謝状が届いています。皆様ありがとうございました。



《幹事報告》伊藤幹事



・地区大会の記録誌、インターアクト年次大会の報告書、サイクルアイが届いています。事務局に置いてあります。
・ガバナーノミニージェグネード推挙決定についてというプリントが来ています。2026-27年のガバナーとして弘前西RCの成田俊介さんが推挙されて決定したという事です。

・例会変更のお知らせ、八戸東 RC 2月9日(金) 時間場所変更、2月23日(金) 祝日につき休会、メーカーキャップ出来ません。八戸北 RC 2月13日(火) 祝日の週につき休会、メーカーキャップ出来ます。2月27日(火) 時間変更。
・能登の災害支援金、今週もご協力お願いします。
・よろず相談のポスター、チラシが残っていますのでお持ち帰りの上告知をお願いします。

《ニコニコボックス》 櫻田副委員長

佐々木貴之様： よろしくお願いたします。

大橋会長： 長嶺さん卓話よろしくお願いたします。

伊藤幹事： ポールハリスに感謝！ 長嶺さん今日はよろしくお願いたします。



《会員卓話》 長嶺会員



伊藤幹事からポールハリスについて卓話をもらいたいという事で、ポールハリスについては何もないと返事をしたところ、なんでもいいから話してくれという事で、先程大橋会長からポールハリスへの期待がありました。期待を裏切るような形でプライベートな話をさせていただきます。

「三つ子の魂 100 までについて」

皆さんご存知とは思いますが「孟母三遷の教え」と言うのがあります。これは道教の孟子のお母さんが孟子が小さいころ 3 回引越したという話です。最初は墓地の近くに住んでいたら、孟子が葬式の真似事を始めたので、次は市場の近くに移ったら商人の真似事を始めた。次に学問所の近くに移ったら、やがて孟子が学問を志すようになったという話ですが史実ではないとされています。このように子供の生育環境は、その後の人格形成に重大な影響を及ぼすという事です。

皆さんの記憶の始まりはいくつぐらいですか、私の場合小さいころの記憶は 3 才から 4 才のころだと思います。親父におんぶされて秋の月夜の晩に病院に運ばれていったという記憶が最初かなと思います。私は小さいころから小児喘息で、風邪を引くとすぐ扁桃腺が腫れ上がって水も飲めない、腫れて呼吸困難になるくらい、チアノーゼと言うんですかね、唇が紫色になる事が多く、しょっちゅう親に病院に運ばれて行ったというくらい体の弱い子供で、風邪をひかないように夏でも綿入れを着て、体力をつけるためにお堂と道路の清掃が毎日の日課でした。

私の母は信心深い人で、10 人兄弟の 1 番上のお姉ちゃんですから、弟、妹の面倒を見ていました。昔の事ですから病気になっても医者に診てもらおうお金もなく、医者も近くにはいなかったのです。昔の農村の人は子だくさんで 5 人、10 人は当たり前、そんな中半分くらいは小さいうちに亡くなっていくという時代背景でしたので、うちの母は弟妹 4 人位自分の目の前で、病院へ連れて行くこともできずに死ぬのをただ見ていたという経験をしていて、そうなるかと母親代わりに弟妹を育てていく身としては神佛にすがることができる状況で過ごしたのだと思います。

そういった事から母は凄く信心深い人で、私も体が弱かったものだから母が仏壇の前に座ってお経をあげている隣に一緒に座っているような子供でした。

母が買ってくれたお釈迦様の話の絵本が何冊かあって、それを母親から読んでもらううちに絵本に興味を持って、文字を書いたり読んだりするように

なって小学校に入る前から読み書きができました。私は絵本からいろいろなことを学びました。仏陀は 6 年間の難行苦行の修行の末修行を諦めて菩提樹の下で座禅を組み 7 日目の明の明星を見て豁然大悟したと言われていています。又、因果応報と言いまして、人に石をぶつければ自分も石をぶつけられる、人を殺せば自分も殺される、そういう話を絵本の中から小さいころ学んだものです。

私は小さいころから、母の影響もありお釈迦様のように悟りを開いて、苦しんでいる人を助ける事ができるような人間になりたいという目標が出来上がっていました。

仏陀の教えは、この世の四苦八苦から解放されて生きるにはどうすればよいかという人としての「生き方の哲学」であり「人生哲学」です。よく仏教と宗教はおなじではないかと言う人がいますが、お釈迦さまが説いた仏教は人間の生き方、人生哲学ですから、何々教と名前のつくものがありますが、仏教は仏陀が教えた教えで、儒教と言えば孔子とか孟子が出てきます。道教は老子や荘子が出てきます。これらは全部宗教ではなくて、人としての生き方とか道徳を説いた教えです。

悟りのことについて話したいと思います。森羅万象の真理を知ること、「悟り」と定義にしますと、悟りは坊主だけに許された特権なのかという事です。よね、坊主で無ければ悟りは出来ないのか、そうではないでしょう、悟りは日々苦しみながら生きている我々にこそ必要である。苦しみから解放されて楽しく生きる悟りは我々一般の人にこそなければなりません。悟りは、人生最大の難問ですが、森羅万象の真理（悟り）は誰でもが知っていて、皆さんは既に悟っているのです。悟っていることに気付いていないだけなのです。森羅万象の真理は、春夏秋冬季節は巡り、生きとし生きるものの生老病死、生まれる苦しみ、老いる苦しみ、病気になる苦しみ、死ぬ苦しみ、そして輪廻転生、生まれ変わりです。これは皆さんすでに知っている事なんだけれども自覚して知っていないという事です。我々はこの森羅万象の真理を「自分の生活の真正面に据え」て「意識的に自覚」して生きているかと言うのが悟っている人と悟っていない人の差なのです。

次に仏教の人生哲学のこと、お釈迦様には、「人々を苦しめている根本的な原因は何か」「苦しみから解放されるにはどうすればよいか」という一貫したテーマが有りました。この現世で、どのようにして悩みや苦しみから解放され、今をイキイキと生きたら良いかと言う方法（智慧）を仏陀は悟り教えています。この世の真理を解き明かす 4 つのキーワードと言うのがありまして、一つは「一切皆苦」人生は自分の思い通りにはいかないという真理が一つ、「諸行無常」で「諸法無我」全てのものは繋がりの中で移り変わるという真理、この真理を正しく理解し、正しく生活していくとあらゆることに一喜一憂することなく「心が安定した状態」で生活できる、要するに「涅槃寂靜」という生活ができるようになるというのが、釈迦の教えのフレームワークです。

一切皆苦（いっさいかいく）人生は思い通りにならない、皆さんの中には人生が思い通りになってい

るという人もいるのでしょけれども、私たちの世界は自分の思い通りにならないという真理、四苦八苦という言葉をご存知だと思いますが、四苦は生まれ出て生きる苦しみ、例えば子供は親を選べない、親も子供を選べない、生まれ出る苦しみ、生きて行くことの苦しみ、そして老いる苦しみ、病気になる苦しみ、死んでいく苦しみでこれが四苦、そして八苦であと四つあります。求不得苦(ぐふとつく)と言ってお金や物、地位や名誉など、求めるものが手に入らない苦しみ、怨憎会苦(おんぞうえく)恨みや憎しみを抱いてしまう人と出会う苦しみ、愛別離苦(あいべつりく)どんなに愛する人とでもいつか必ず別れなければならないという苦しみ、そして五蘊盛苦(ごうんじょうく)心身を思うようにコントロールできない苦しみがあります。心身と言うとだんだん歳をとってくると目が見えなくなったり、耳が聞こえにくくなったり、足が上がりず蹴躓くとか、色々身に覚えがあると思いますが、生きて行くこのような苦しみがあるという「四苦八苦」です。自分の思い(我まま・欲望)を抱くから実現できなくて苦しむのです。ですから抱いたものを捨てれば、苦しみが消える。それは誰でも分かっているのですが中々欲望を捨てることが出来ず苦しむ、それが我々人間なのです。例えばタバコは健康に悪いという事はわかっているが、中々タバコは止められない、そういった苦しみを抱えながら皆生きているという事です。

諸行無常(しよぎょうむじょう)すべては移り変わるもの、世の中のあらゆるものは変化自在で絶えず変化し続けているという真理です。この掴み所が無く変化するものを掴んだと錯覚し、固執し、執着することには何の意味も無いという事を分かるようになれば苦しみに解放されていくという事です。諸法無我(しよほうむが)すべては繋がりの中で変化している、全ての物事は影響を及ぼし合う因果関係によって成り立っていて、他と関係なしに独立して存在するものなど無い、という真理、自分という存在すら単独で存在するものではなく、互いの関係の中で「生かされている」存在であると気がつくことです。例えば今、皆さんが食事をして食事を楽しまれたわけですが、今皆さんが身に着けている衣服、この中で皆さん自分で作ったものは何もないと思います、人様が作ったものを着せてもらって、食事にしてもコックさんが作ったものをスタッフさんから運んでもらって、食事が終わったら食器も片付けてもらって、この様に皆さんのお陰で生かされているという事を自覚した方がいいと思います。ですから我々の存在と言うのは人様のお陰で生かされている我が命だという事を実感して感謝する事が大切ではないかと思ひます。

涅槃寂靜(ねはんじゃくじょう)とは、そういう欲望とか願望を消し去りながら、安らかな心で毎日を生活できる状態、これが仏教の目指す究極の真理だと思います。

色々とお話してきましたが、お釈迦さまは苦しみのメカニズムを解き明かして、苦しみをコントロールする方法まで考えてくれています。

四諦八正道(したいはっしょうどう)「一切皆苦」

であると、この世は自分の思い通りにはいかない事が分かった。それではどうすればよいのか、四聖諦(ししょうたい)苦しみのメカニズムは、苦諦(くたい)生きることは思い通りにならないと理解し、苦しみと向き合う事、集諦(じつたい)苦しみの原因は、物事に執着した煩惱にあると理解する事、滅諦(めつたい)煩惱を原因とする苦しみを消し去り、涅槃の境地に達する事、道諦(どうたい)涅槃に達するために八正道を实践する事、そうすると煩惱を消し去って涅槃の境地で生活できるという事を言っています。八正道と言って八つの正しい道と言うのがあります。正見(しょうけん)正しいものの見方、考え方を持つこと、正思唯(しょうしゆい)怒りや憎しみに左右されることない、正しい意志で判断し、心の行いを正しくすること、正語(しょうご)嘘や悪口を言わずに、正しい言葉を使うこと、正業(しょうごう)殺生や盗みなどせず正しく生きる事、正命(しょうみょう)行儀良く、規則正しい生活を行うこと、正精進(しょうしょうじん)善いことに向かって、正しく努力する事、正念(しょうねん)正しい意識、思いを持つこと、正定(しょうじょう)正しい心を保つこと、これらの八正道(8つの正しい行動)を行うことが、苦しみに解放されるための実践的な行動である。これをロータリーの四つのテスト、そこにあります四つのテストはまさに八正道の項目です。何が項目かという、第一番、真実かどうか、これは八正道で言えば 正語・・・嘘や悪口を言わないで、正しい言葉を使っているか? 次のみんなに公平か、正見・・・偏った物の見方、考え方をしているか? 次の好意と友情を深めるか、正思唯・・・怒りや、憎しみに左右されないで仲良くやっているか? そして、みんなのためになるかどうか、正業・・・人として奉仕の生活をして正しく生きているか? というように釈迦は八正道で言っています。これはまさにロータリーの四つのテストに該当すると思ひます。

結論として、この世で起こるすべてのことは自分の思い通りにはいかない真理、全てが繋がりの中で移ろうという真理、この真理を自分の全生活の真正面に据えて意識的に自覚して生活している人、これを悟りを開いた人と言ひますが、まずは悟りの入口に立った程度の悟りです。悟りの世界は無量大に広い世界ですから一生をかけてもたどり着けないといわれており人生最大のテーマです。

禅宗ではお師匠さんがいて弟子がいて、弟子が悟りを開いたなと言うと、師匠は正見と言って正しい見方が出来るようになったと正見を認めますが、弟子に「良いか、ここで満足しては駄目だよ、更に30年」これからも一生懸命座禅して30年修行しなさいよということで、これを禅語では「更に参禅せよ30年」と言ひます。それくらい悟りという世界は広くて大きなものです。

人生自分の思い通りにはいかない真理

一般の人は現実と自分の思いとのギャップに苦しむ(なんで?なんで?)、悟った人の対処法として、何か苦しいことができたなら意識して自分本位に物事を考えていないか?自省してみる。皆が喜ぶことを第一に考え実践する事によって苦しみが消えるので

す。悟りの初心者の頃は、もぐら叩きのモグラのように頻繁に「自分本位」と言うモグラが頭をモタゲてきます。その都度意識的にモグラを叩き、皆が喜ぶことを第一に考え実践するとだんだんモグラが減って、最後に自分の中からモグラがいなくなれば、苦しみもなくなります。しかし我々の現実、モグラの浮き沈みをボ～と眺めているだけでそれを楽しんでいるだけですが、覚者はモグラ叩きに集中しています。それは生きることのテーマだからです。ここが違うのです。

全てが繋がりの中で移ろうという真理

あらゆるものは常に繋がりの中で移ろい変化していて何一つ単独で存在しないという真理があります。自分の存在は繋がりの中で生かされている存在であると意識を自覚する事によって仕事や人間関係に於いても常に謙虚に行動できるようになります。周りのものへ慈愛や感謝の心をもって接すると、一瞬一瞬を尊く生きることができ、移ろいの中で一期一会の出会いを大切に 生かされている自分の命を毎日大切に生き、自分本位でなく周りの人への「思いやり」をもって行動する事で我ままや苦しみから解放されて、そして今をイキイキと生きるという事を教えます。これをロータリーに関連付けて考えると、ロータリーの第一モットー「超我の奉仕」と第2モットー「最もよく奉仕するもの、最も多く報われる」

に関連付けることが出来るかと思えます。ロータリー自体も人生哲学ですから、仏教の人生哲学も同類の話ですから皆さんも納得して受け入れられると思います。

我々は何故奉仕をするのか？皆さん考えたことがありますか、ロータリーは奉仕する団体だ、ではなんで奉仕するの？それは我々の存在は、繋がりの中で周りから恩を受けて生かされている存在だと自分の本質の中で知っているから、皆さんから生かされている存在だという事を知っているからこそ、周りに恩返しをしなければいけないという気持ちが、自分の奥底にあるのです。これは理屈ではなく自分の本質の中に、生かされている恩があるから皆さんに恩返しをしようという循環の中で、奉仕すると嬉しくなる、そういう事が皆さんの本質の中にあるからこそ奉仕をすることを楽しめるのです。自分のできる恩返しは何をするかと言ったら、自分の仕事を通じて恩返しするしかないのだから、職業奉仕とか社会奉仕に繋がっていくのだらうと思えます。

口幅ったい事を壇上から申し上げて申し訳ありませんでしたが、ロータリーの人生哲学も仏教の人生哲学も皆繋がっているという事で、これからもロータリーの奉仕活動を楽しみながら、皆さんと一緒にやって行きたいと思えます。ありがとうございました。